

## 地域学校薬剤師研修会報告

柏市学校薬剤師会支部長 大塚 昌孝

9/20（土）午後7時よりアミュゼ柏 1F プラザにて東葛5支部（松戸・野田・我孫子・流山・柏）の地域学校薬剤師研修会が行われました。この研修会は昨年から行われている千葉県学校薬剤師会の地域サポート事業で、地域の学校薬剤師会が合同で開催する研修会です。

当日は35名の先生方にお集まりいただきました。

第一部は千葉県薬剤師検査センターの森様・湯浅様に「飲料水検査の概要」「貯水槽設備の概要」についてご講演いただき、飲料水検査の概要について、検査の方法や各検査の意義、水道水に色がついていた場合の考えられる原因など提示していただきました。

貯水槽設備については、貯水槽の維持管理に関する注意点や蛇口から遊離残留塩素が出にくい場合（生徒数の減少により受水槽や高置水槽の容量とのバランスが悪い事例）の対処法など大変参考になるお話でした。県立高校を担当している先生方は実際に行っている検査ですのでピンときたかもしれませんが、小中学校でも実際は貯水槽があり同じような検査を業者の方が行っています。貯水槽に関しての知識も学校薬剤師として持つておかないと、異常が出た際の事後措置に関して適切なアドバイスができないこととなりますので、小中学校担当の先生方も他人ごとではありません。また非常に興味深かったのは、塩素が濃い場合はDPD試薬を入れても色につかない、一瞬赤い粒が落ちて後は薄い黄色になるなどの事例があることでした。通常DPD試薬を入れたらピンクになると推察されるのですが、塩素濃度が非常に濃い場合やpHの状態により色が出ないことがあるようです。

第二部は各支部で生じた事例紹介・対処法をもとに、各先生方からの質疑応答を東葛5支部の支部長先生にご登壇いただき、出席者からの質疑に答えていただきました。

飲料水やプールのpH（ピーエッチ）の検査ですが、柏支部の先生から使い捨てのpHキットを使用しているが比色が分かりにくいという意見があり、松戸支部の安藤先生から別の試薬（フェノールレッド）に変えると分かりやすいのではとのアドバイスを頂きました。

学校薬剤師として本日習ったこと以外にもいろいろな知識や事後措置例など、多くの会員の先生方と情報を共有し、色々な知識を持たなくてはと思った研修会でした。



< 当日の会場 >



< 事例紹介 >



< ベテラン支部長への質疑 >